被災地派遣レポート＜第１１回＞

総務局（(財)東京都人材支援事業団派遣）　高山 開智さん

■被災地（宮城県石巻市）へ

宮城県の東部に位置する石巻市は、平成１７年に１市６町が合併した、人口約１６万人、県下第二の都市。

今回の震災による死者・行方不明者の数は約６千人。５月８日時点での避難者数は約９千人である。（6/6 時点：約６千６百人）

全壊地区の門脇町

平成 23 年５月４日早朝、私の班を含めて４班 20 名（うち女性７名）は、宿泊場所となる石巻市の老人保健施設に到着。まず高台にある日和山公園から、海へと続く市街地を一望する。一面に瓦礫が累々と積みあがり、本当にひどい状況である。テレビや新聞で毎日見ていても、やはり実際に目にしてみると言葉が出てこない。これでも、震災から二ヶ月近くが経ち、かなり片付いた状況なのだから、震災直後はどんなであったのか、想像するのも難しいものがあった。

■石巻市役所での業務

り災証明発行業務室内

業務場所となる市役所は、土日祝日も開庁して住民対応にあたっている。私の班は、「り災証明(被災証明)」発行事務補助にあたった。

班の基本業務は個室内での作業であったが、手薄の業務の応援依頼があり、「自動車税の免除申請」の窓口業務に従事する機会をもらえた。窓口では、市・県の垣根を越えて、市税である軽自動車税、県税である普通自動車税の両方の申請を受付けている。また、申請書に最低限の情報しか記載がないものでも受理する。こういった柔軟な対応は、来庁者に安心感を与え、非常に重要であると感じた。窓口にいたのはわずか半日であったが、直接、被災者と接して話を聞く経験は非常に貴重なものとなった。

■市役所周辺を見て

市役所周辺では、津波被害の少なかった地域を中心に、ライフラインの復旧も進み、飲食店やコンビニなどで営業を再開しているところもあった。特に、大手チェーン店ではなく、小さな飲食店などが営業しているのを見かけると、少しずつでも流通が再開していることがわかり、明らかな復興の兆しを感じることができた。

店内では、地元特産品なども既に並びはじめ、観光客に購入を呼びかけたり、復興を謳った定食を安く提供していた。震災直後は、支援する側も一緒に我慢することが必要だったが、今後は、震災から立ち直ろうと頑張っている店舗などを積極的に利用し、経済の活性化に協力する支援も強く求められていると感じた。

■派遣を終えて

今回の派遣で、被災地の方々が本当に大きな災害に遭遇し、その災厄を乗り越え、復興への道を着実に進んでいることを実感した。なんと人間はたくましいものなのだろう、それもまた、今回の支援に参加して得た感想である。

東日本大震災が報道されるたびに、テレビに見入って何かせねばと思い、何の役にも立てない無力感を感じ、そのジレンマに陥っていた。市役所での業務は実質 3.5 日とほんのわずかではあったが、手助けをする機会をいただいたこと、通常業務を離れて職場に負担をかけることになったけれど、温かく送り出していただいたことに感謝したい。